

医療安全だより

報告件数 750 件達成!!… がしかし!!!!

今年度目標の 1 つとしてきましたインシデント報告件数 750 件(医療の透明性を示す報告件数:病床数×5)が達成され、現在 785 件(レベル対象外含め)となりました。私が就任して最初の年は約 300 件、昨年度は 460 件。今年度ようやく医療の透明性を語れるレベルまで来ることができました!!しかし…残念な事がひとつあります。それは**報告が定着しているわけではなく、声をかけないとすぐに報告件数が下がってしまう現状がある**。ということです。インシデント(特に 0 レベル)報告を行う事が当たり前の文化に湯河原病院が変わっていかなければいけないと思います。又次の段階として、いただいた報告件数を質の向上の為に活かしていくという事もあります。この事に関しては今後どのように取り組んでいくかは**皆さんと一緒に考えていきたい**と思います。

確認作業できていますか…?



最近、確認不足による書類間違い、左右記載間違いなどのインシデントが多発しています。皆さん確認方法で『指さし呼称』はご存知でしょうか?元は、日本国有鉄道の蒸気機関車の運転士が、信号確認のために行っていた安全動作でしたが、現在では鉄道業にとどまることなく、航空業、運輸業、建設業、製造業等、幅広い業界で行われ、医療現場でも危険予知の一環として取り入れられています。人間の意識レベルを 5 段階のフェーズに分けた「フェーズ理論」によれば、対象を指で差し、声に出して確認する行動によって、意識レベルを「フェーズⅢ(脳が活発に動き、思考が前向きな状態)」に上げ、緊張感、集中力を高める効果をねらった行為とされています。実はこの指さし呼称は医学的研究でも効果的であると論文でも発表されているのです。(これについては私も驚きですが、しっかり効果の裏付けもされている)皆さんもぜひこの機会に確認方法について振り返ってみませんか?

1 対象を見る



2 指をさし、発声



対象をしっかりと見て、「医療安全でいこう」「輸液残量」など、呼称項目を唱える

3 手を耳元へ



利き手を耳元まで振り上げながら、本当に問題ないかなどもう一度しっかり考え確かめる

3 振り下ろし、発声



確認ができた対象に向かって手を振り下ろしながら「ヨシ!」と発声する

